



光の子だより

令和8年10月16日
千葉市立作新小学校
校長 金谷 英 味

学校教育目標:一人一人のちがいを大切に「かしこく あたたく たくましい」子どもの育成
～ 合言葉「さ・く・しん」を通して ～

後期が始まりました

学校では秋休みを挟んで、前期終業式と後期始業式が体育館で行われます。集会や式には「校長先生のお話」が必ずと言ってよいほどあります。年間、14回ほど話すことになります。作新小に来て2年半になるため、既に30回以上話をしています。私が全校の子どもたちにできる大切な“ミニ授業の時間”だと思っています。そのため、「今、私が子どもたちに伝えたいことは何か?」「1年生から6年生までが飽きずに理解できる内容は何か?」「同じ話の繰り返しになっていないか?」「どんな小道具?!を用意しようか」等いつも何をどのように話そうか悩みます。今年の前期の終業式には、「どんぐり」を例えに用いて、「成長」について話しました。もちろん、学校のどんぐりを拾い、さらに小道具も作り、それらを使いながら話しました。その日、子どもたちの下校を校門で見送っていると、私の話の感想を述べてくれる子や、早速、実践して見せてくれる子がおり、嬉しくなりました。校長冥利?!に尽きる瞬間です。しかし、ある高学年の子に真面目な顔で「校長先生の話、つまらなかった。」と指摘されました。その場は、私も笑顔で「そう? ごめんね。」と答え、何がよくなかったのか振り返りました。少し長かったのか? 例えが分かりづらかったのか? 小道具が魅力的ではなかったのか? 小道具を作ったことで自己満足していたのではないかと等…。ただ、やはりストレートに言われたことはショックでした。しかし、このショックが今回の私の大きな気づきとなりました。私は、子どもたちや保護者の皆様、職員などに自分の思ったことをストレートに言い過ぎていることはないだろうか? 私の年齢になっても、子どもの一言にショックを感じるのだから、子どもはなおさら、人から投げかけられる不用意な言葉に傷付きやすいということを改めて痛感しました。その日の職員打ち合わせで、この話をし、まずは、私たち教職員が気を付けていくよう話しました。



後期の始業式には、「ふわふわ言葉(言われて嬉しくなる言葉)」と「チクチク言葉(言われると悲しい気持ちになる言葉)」について話をしました。何気なく発したつもりでも、チクチク言葉を投げられた側は傷つくこと、大人だって傷つく(たとえ相手が子どもでも)、だから、相手に伝えたいことはふわふわ言葉に包んで伝えるようにしようと話しました。そして作新小がふわふわ言葉であふれる学校であってほしいと伝えました。ご家庭でも「ふわふわ言葉」と「チクチク言葉」について話していただけると嬉しいです。

後期も本校の教育活動にご理解とご支援をいただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

【先生も本気です!】休み時間の交流タイムで職員も子どもに負けず、走っています。



先生を逃がさないぞ!

先生、まってー



子どもと本気で遊んでくれて
ありがとう



先生、速すぎる!



今のうちに逃げておこう

私も昔は走っていたのになあ。怪我しないですね!